

*Q - Yacht - Times*

*Q - Yacht - Times*

# Q-Yacht Times

-December 2023-

*Q - Yacht - Times*

*Q - Yacht - Times*



# 全日本インカレ(団体戦)

## レース1日目

目標でもあった全日本インカレ総合3位に向けて気持ちを一つにし、レース初日に挑みました。両クラスともに確かな手ごたえを感じる結果を残すことができ、良いスタートを切ることができました。

## レース2日目

レース2日目は風が弱い中レースに挑むことになり、思うように結果を出すことができず苦しい一日となりました。"全日本"のレベルの高さを痛感させられ、選手・サポートともに改めて気を引き締め、反省を行い翌日に備えました。

## レース3日目

この日は出艇したものの風がなくレースは行われず、イレギュラーなことも多く緊張感が漂い続ける一日でした。翌日のレース最終日に向けミーティングをしっかりと行い万全の準備を行いました。

## レース4日目

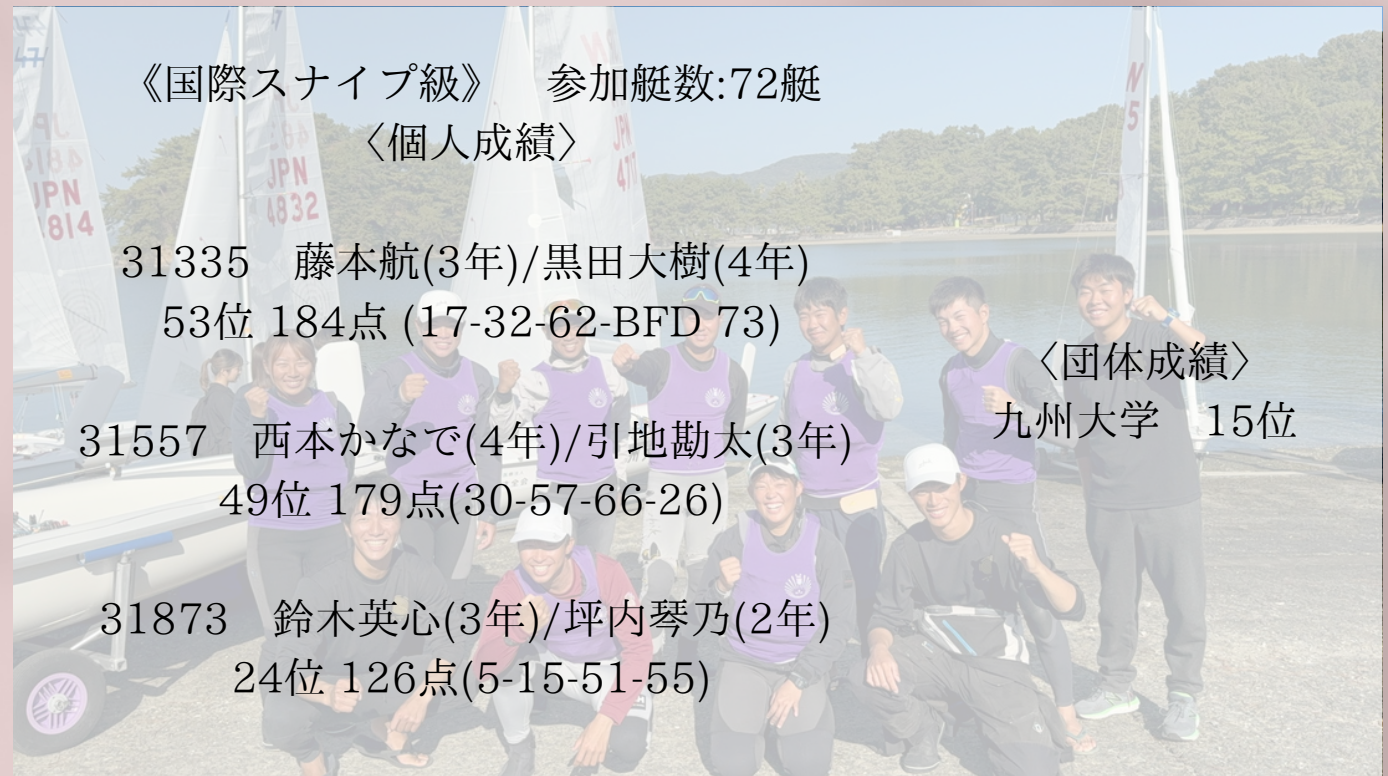
とうとうレース最終日を迎えました。「下剋上」をスローガンに掲げ選手・マネージャーともに一丸となってこの1年間励んでまいりましたが思うように結果を残すことができず悔いが残る結果となってしまいました。

次の1年、今年度は「この一歩」をスローガンに部員一同励んでまいります！

全日本インカレ期間中に応援および差し入れをしてくださった先輩方、保護者の皆様誠にありがとうございました。

# 全日本インカレ(団体戦)〈最終成績〉

*Q-Yacht-Junes*  
*December 2023*



《国際スナイプ級》 参加艇数:72艇  
〈個人成績〉

31335 藤本航(3年)/黒田大樹(4年)  
53位 184点 (17-32-62-BFD 73)

31557 西本かなで(4年)/引地勘太(3年)  
49位 179点(30-57-66-26)

31873 鈴木英心(3年)/坪内琴乃(2年)  
24位 126点(5-15-51-55)

〈団体成績〉  
九州大学 15位

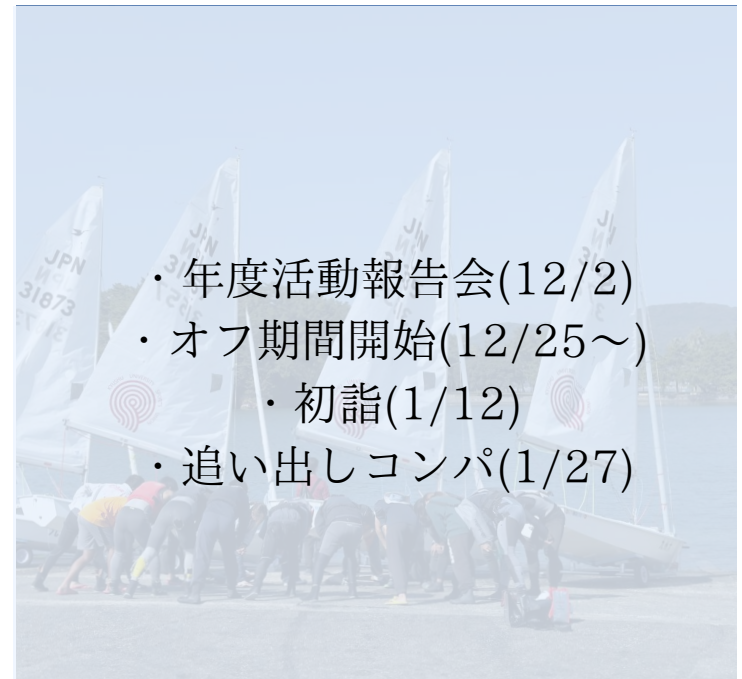
《国際470級》 参加艇数:72艇  
〈個人成績〉

4832 城毅(1年)/伊井宥景(3年)  
58位 224点 (DNF73-21-DNF73-57)

4814 前田将太郎(3年)/金子朔也(3年)  
60位 231点 (31-63-DNF73-64)

4717 伊藤舞梨(2年)/永田蒼馬(2年)  
38位 142点 (12-19-DNF73-38)

〈団体成績〉  
九州大学 19位



- ・年度活動報告会(12/2)
- ・オフ期間開始(12/25～)
- ・初詣(1/12)
- ・追い出しコンパ(1/27)

〈今後の予定〉

# -新幹部紹介-

1年間事故なく部活を続けるために、部員全員の安全に責任を持って活動してまいります。運営面に関しまして、昨年度より最上級生マネージャーとして活動してきたマネージャーが僕たちを支えてくれます。より高いレベルで運営を目指し、それを後輩にも受け継ぐことが出来るよう精進してまいります。至らぬ点もあるとは思いますが、この1年間九州大学ヨット部主将としての誇りをもち、目標達成出来るよう精一杯精進してまいります。

主将 前田 将太郎



新たに九州大学ヨット部の副将を務めさせて頂くこととなりました。主将が先頭で副将が最後尾、物理的には距離があるかもしれませんが前田の1番の理解者として、1番のサポーターとして後ろから前田カラーをチーム全体に浸透させていきたいと思えます。至らぬ点が多くあると思えますが、一年間よろしくお願いたします。

副将 引地 勘太

# -新幹部紹介-

チームの技術を担う人間として、昨年以上の責任があります。責任への恐怖、不安、全てに挑戦してやります。何事もあと一步、その一步、この一步を踏み出すところから始まります。

そのあとも着実に一步ずつ進むこと、忘れずに進んでいきたいと思えます。

今シーズンこそは戦えるチームで江ノ島に行く

“Partido a Partido”

レース技術部帳 伊井 宥景



学連部長ということで部運営の仕事におわれることはあまりない僕の今年の役目は「前を走る」ことだと考えています。僕個人としての昨年は成長の1年でした。昨年度は多くの経験をし、大きく成長出来ました。一方で全国のトップ層との差を痛感する1年でもありました。今年は最後の1年、昨年感じた差を埋め、追い越し全国でも前を走れるよう精進します。

よろしくお願いします。

学連部長 鈴木 英心

# -新幹部紹介-

帆友会部として玄海の作成を任されている事やヨット部の4年生となり幹部のメンバーであるという事実が非常に不安でなりません。97年の歴史のあるヨット部で、帆友会の方々とコミュニケーションをとる事・4年生である事。経験の乏しい事だらけで不安です。不安ですが、もうそろそろ誰かに管理されるわけではなく、一人で立って行動できる人間にならないといけません。ここまでヨット部を続けてきた事で出来るヨット部の4年生という経験から逃げず、最後までやり遂げる事で人間として成長していこうと思います。

帆友会部長 金子 朔也



昨年度マネージャーチーム一同は日本一のサポートを目標に日々練習に励んでいました。しかし、九大ヨット部としてのインカレの成績が総合15位だった以上、マネージャーチームとしてのサポートも不十分だったということだと思っています。色々と1年を振り返ったら妥協してしまっていたところが個人個人あるのでは無いでしょうか。その妥協を無くさない限りは日本一のサポートだと胸を張って言うことはできないでしょう。どれだけしんどくても妥協しないこと。これが私の今年の抱負です。変わらず日本一のサポートを目指し続けます。今年1年もよろしく願いいたします。

マネージャーリーダー 西森 野乃花

# -新幹部紹介-

練習安全部長として、安全を第一に活動して参ります。安全については個人が意識することが事故を防ぐことにつながると思うので、部員の安全に対する意識を高めさせて、今年度も事故なく終わられるようにしたいと思います。去年の反省を活かして今年も頑張りたいと思います。そして、最後の大会で、自分ができることは全てやり切って、あとは選手たちを「信じる」ことができるように4年生としてふさわしい行動・言動を心がけて活動して参りたいと思います。よろしくお願いします。

練習安全部長 山川 紗英



昨年度より、広報部長として活動していく上で、本当に多くの先輩方、保護者の皆さま、その他応援いただいている全ての皆さまに支えていただいているということを実感いたしました。恵まれた環境を与えていただいていることへの感謝を忘れずに活動してまいります。今年度は、昨年度以上により良い広報活動を追い求めていく所存です。至らぬ点も多々あると思いますが、今後とも変わらぬ応援のほどよろしくお願いします。

広報部長 菅 稜太朗

# -新幹部紹介-

部員全員が遠征に安心して臨めるようにすること、遠征中は快適に過ごすこと、遠征を安全に終わることができることが今年度の遠征計画部の目標です。部員数が多ければ多くなるほど、全員のニーズを満たすことは難しいです。遠征計画部員のみではなく他の部員にも遠征についての相談しながら、決めて行きたいと思います。選手・マネージャーともに最高のパフォーマンスをどの場所においても発揮できるように準備を怠ることなく、進めていきます。至らない点も多くあると思いますが、温かく見守って応援していただけると幸いです。



遠征計画部長 染矢 陽日葵



昨年の一年間、九大ヨット部の伝統の復活のため、主務部長として駆け回りました。多くの先輩方に相談し、お言葉を頂きました。一年が過ぎた今、伝統とは何か、九大ヨット部のあるべき姿とは、考えても、まだ分かりません。伝統の復活を求めていたはず。でも復活させることが全てなのか。伝統を引き継ぎ、新たな伝統をつくっていくことが私達には求められているのかなど今は思っています。主務部長として、考え続け、行動し続ける1年でありたいと思います。そして、4年生として。誰よりもヨットと向き合い、部員と向き合い、一步、一步、確実に進んでいく、そんな一年にしたいと思っています。今年も私達の活動を暖かく見守って頂ければ、幸いです。よろしくお願いいたします。

主務部長 上妻 和華子



# -新幹部紹介-

2年生の時から人事部長をしているので、仕事には慣れて来ましたが、まだまだ初の試みには戸惑うこともあります。今年度は部員のモチベーション管理に一番力を入れたいと考えています。「勝ち」につなげるためには、部員のヨットに対するモチベーションが高く、競争心のある状態だと私は考えています。部員のモチベーションが低くなりがちなおフ期間後などは、特に力を入れたいと思っています。この意志を忘れることなく、来年の11月まで駆け抜けます。引き続き九州大学ヨット部の応援をよろしく願います。

人事部長 宮本 海里



幹部ブログを書き始めて1年が過ぎた今、改めて思うのは、多くの人の協力のおかげでヨット部が成り立っているということです。影でたくさんの方が自分の時間を犠牲にして部のために動いてくれています。部員はそんな人達への感謝を忘れないで活動していくべきだと思っています。幸か不幸か、私には2年半という会計部長としての時間が与えられました。3年マネージャーにして最高学年マネージャーという責任を背負って1年間活動しました。良いことも悪いこともたくさん経験しました。後悔の全くない1年にするのは難しいかもしれませんが、最後に「よかった」と言い切れる、そんな1年にしたいです。微力だとしても、部を動かす大切な1ピースになれるよう、今年も「一歩」ずつ、精一杯かけぬけます。

会計部長 齊藤 瑞紀